

# 健康ぷらざ

## No.475

企画:日本医師会

# 治る認知症!? 慢性硬膜下血腫

まんせいこうまくかけっしゅ

最近、急に物忘れがひどくなったり、  
転びやすくなったりしている方はいませんか？  
もしかすると、慢性硬膜下血腫かもしれません。

この病気は高齢者の男性やお酒が好きな人に多く、  
脳が萎縮することにより頭蓋骨と脳との隙間が大きくなること  
が関係していると考えられています。

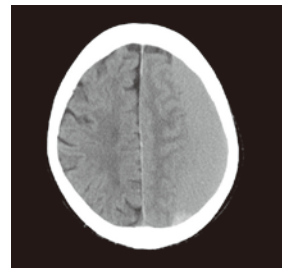
最初は打撲などわずかな衝撃でこの隙間に少量の出血が起こります。  
そして、その後も出血が増量して脳を徐々に圧迫し、  
1〜2カ月たった頃に圧迫が強くなり症状を自覚するのが特徴です。

診断は、頭のCT写真を撮影して行います(下写真)。  
治療は、頭蓋骨に1cmくらいの穴を開けて血腫を洗い流す手術をします。  
それによって脳への圧迫が解除されれば、症状はみるみる改善します。

脳の手術というと重病に思われがちですが、この病気はタイミングを  
逃さず治療すれば元通りに回復することも多く、自覚症状が  
似ていることから、「治る認知症」としても注目されています。  
症状の心当たりがある時はかかりつけ医に相談し、  
頭部CT検査のできる病院の紹介をうけましょう。



自覚症状は、頭痛、物忘れ、意欲の低下、言葉がうまくしゃべれない、片側の手足のしびれ、思うように運動ができない、など。進行すれば意識障害も見られます。



慢性硬膜下血腫患者の頭のCT写真

右側の白い頭蓋骨と脳の間には灰白色の血腫がたまっています。血腫がある側の脳のしわは不明瞭に写っていて、強く圧迫されていることがわかります。